

浅草地域まちづくりの基本理念と基本方針

■基本理念

「浅草の歴史・文化を育み、新たな賑わいを創造するまちづくり」

＜基本理念の考え方＞

- ・江戸・明治・大正・昭和のそれぞれの時代に磨かれてきた浅草の歴史・文化は、これまでも地域の観光資源として活かされており、東京の観光拠点としての賑わいを創出している。
- ・一方、浅草地域周辺では、秋葉原地域や墨田区の新タワーの建設など、新たな魅力を発揮するまちづくりの期待が高まっている。
- ・こうした背景を踏まえ、後世に引き継げる浅草地域のまちづくりを目指すために、今後も浅草固有の歴史・文化を、ここで生活している人たちや働いている人たちが力を合わせて大切に育んでいくとともに、新たな文化を創り、まちの魅力を高めていく。そして、文化観光資源として広くアピールし活用していく。また、今後は浅草地域だけにとらわれずに、周辺の魅力とも連携した広がりのある新たな賑わいを創造することで、東京の国際観光拠点としての地位を高めていく。

■基本方針

○来やすく歩きたくなるまちづくり

- ⇒アクセス交通基盤の強化・改善
- ⇒地区内歩行環境の強化・改善、地区外との歩行ネットワークの形成
- ⇒他の地域での浅草の情報、アクセス情報提供の強化
- ⇒安心・安全な環境の整備

○街並みがつながるまちづくり

- ⇒街並み景観の向上・誘導
- ⇒地区計画等による規制・誘導
- ⇒川並み景観の向上・誘導

○賑わいが広がるまちづくり

- ⇒隅田川水辺空間の活性化
- ⇒新タワーに伴う新たな集客の連携
- ⇒上野地域・秋葉原地域、墨田区等との連携
- ⇒連携の強化による回遊性の向上

○時代や文化を体感できるまちづくり

- ⇒文化の支援育成、新たな創出と、文化観光資源の有効活用
- ⇒下町文化を活かし、他の下町地域とも連携
- ⇒観光情報発信力の強化

<基本方針の考え方>

○来やすく歩きたくなる まちづくり

- 観光拠点として、外部からのアクセス性と地区内の歩行環境といった交通基盤の充実は重要な要素であるため、誰もが快適に利用できる鉄道・バスといった公共交通の結節性や乗り換え利便性の向上と共に、観光バスによるスムーズな来訪対応や公共交通としての水上バスの活用を推進する。
- 地区内においては、公共交通（駅など）からの歩きやすさや、賑わいの基本である人の回遊を創出するための判りやすい誘導サイン、歩きたくなる空間形成などの環境整備を推進する。地区外とは、サインの統一、情報提供などを行い、連続した歩行環境の整備を推進する。他の地域において、浅草に来たくなる情報の提供や、アクセス手段の情報提供を強化する。
- また、誰もが安心して訪れ、まちなかを回遊・滞留できるための防犯対策やバリアフリーの充実など、安心・安全な環境整備を推進する。

○街並みがつながる まちづくり

- 歴史や文化に培われた国際観光拠点としての地域ブランドを高めるためには、地域固有の美しい街並みや景観形成は重要な要素であるため、歴史や文化を表現する街並みの景観形成を推進する。
- また、観光地としての賑わい空間が連続する街並み誘導や集客・観光機能の向上のための土地の有効活用や機能更新を推進する。
- 墨田区側からみた隅田川沿いの景観にも留意し、水辺空間を意識した沿川の建物による川並み景観形成の誘導を推進する。

○賑わいが広がる まちづくり

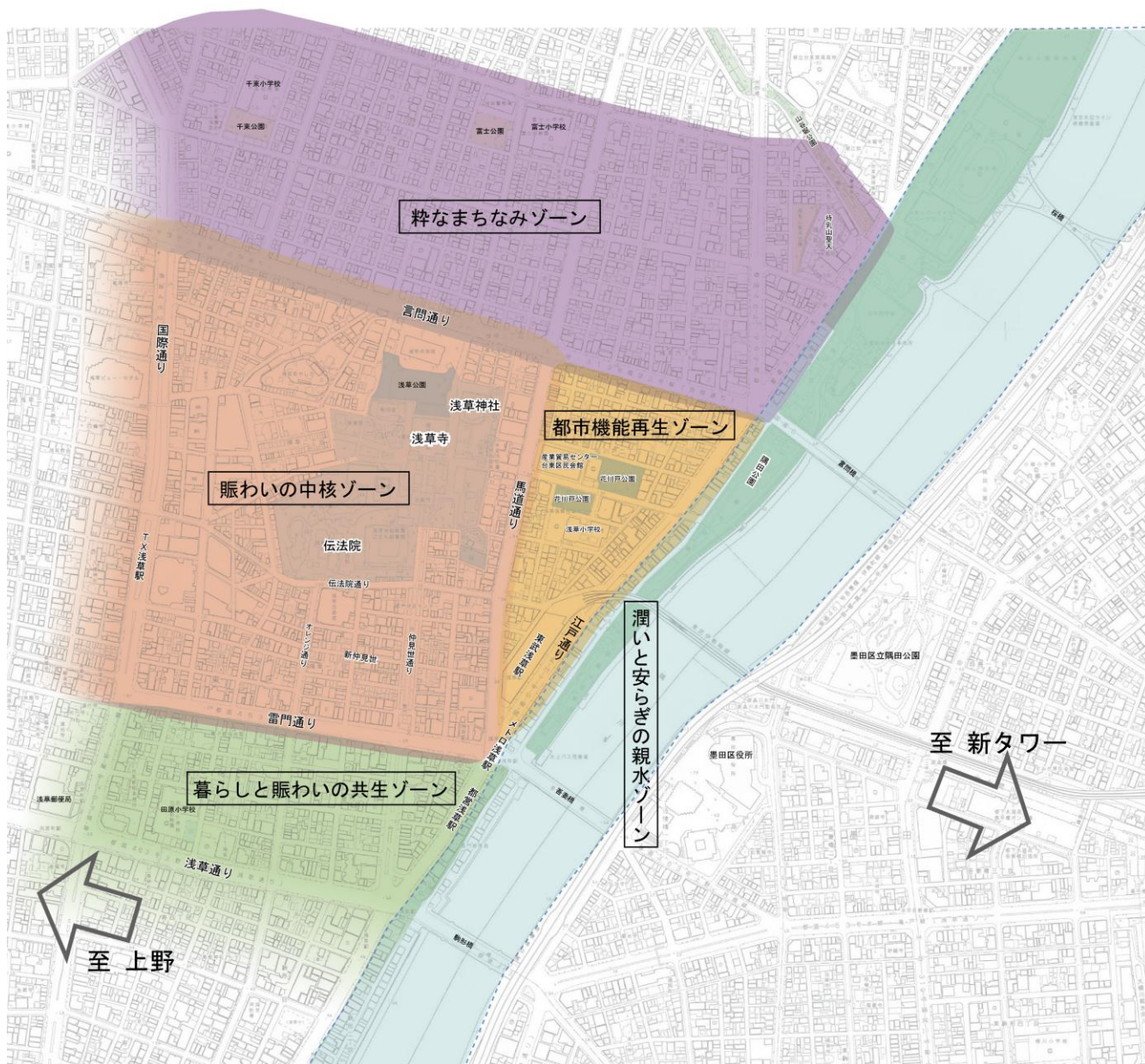
- 地域の魅力を発揮し続ける観光拠点として更なる活性化を図るためには、浅草地域内の観光資源だけで集客力を発揮するのではなく、地区外の複数の観光資源と連携した相乗効果による新たな魅力の創出が重要となる。
- そのため、これまでにない広がりある賑わいと回遊性を高めることが重要である。各種交通機関や歩行空間、水辺の整備などを行い、他の地域での浅草情報の提供を充実して、新タワー等を踏まえた新たな集客の連携や、上野地域・秋葉原地域との連携、隅田川の水辺空間を軸とした連携、そして、墨田区との連携を形成し、回遊性を強化していく。

○時代や文化を体感できる まちづくり

- 浅草地域およびその周辺地域では、商いや祭りなど、人と人のふれあいから体験する江戸の粋、或いは雰囲気ある街並みや風情ある生活が息づく下町情緒、さらには江戸文化を伝える観光施設や資源など、様々なハードとソフトが揃っている。芸術、文化的活動、新たな文化の創造などを支援し、文化を育て、魅力をより一層高めていく。そして、これらを連動させて歴史や文化を体感できるまちづくりを推進する。
- 特に、墨田区との連携については、浅草と墨田区に共通する江戸・下町文化の観光資源を連携・活用したイベント等の観光サービスを展開する団体（NPO法人隅田川・江戸文化観光振興会）等の活動を活かした展開を図る。
- 観光拠点として来訪者が楽しめる仕掛けやサービスの充実および観光情報の発信は、観光まちづくりの基本として重要な要素である。

地域の特性とまちづくりの方向性

- 土地利用等の特性にまとまりのあるエリアをゾーン区分した。
- 各ゾーンの特性と、これを踏まえた将来のまちづくりの方向性を整理した。



※ なお、上記ゾーンの外側に隣接する周辺地域については、各ゾーンのまちづくりの方向性と整合を図りつつ都市計画マスタープラン等に示された地域整備の方針に基づいて、まちづくりを推進するものとする。

ゾーン	ゾーン特性／まちづくりの方向性
賑わいの中核ゾーン	<ul style="list-style-type: none"> ・国際通り、言問通り、雷門通り、馬道通りといった幹線道路の沿道に囲まれたエリアは、古くから浅草地域の賑わいの中心地区であり、浅草寺や娯楽・芸能等の歴史・文化を感じることができる店舗等が集積している。 <p>⇒当ゾーンの歴史・文化の特徴を活かした江戸・明治・大正・昭和を感じる街並み整備による域内のテーマパーク化を図り、賑わいを呼び込むための環境や観光サービスの多様化および来訪者の長時間滞在に対応したまちづくりを推進する。</p>
都市機能再生ゾーン	<ul style="list-style-type: none"> ・賑わいの中核ゾーンの東側に位置し隅田川に挟まれたエリアには、靴・草履の履物問屋等が集積する一方、産業貿易センター、東武浅草駅ビルなどの大規模な施設機能も集まりながら、低層の住宅街も混在している。 <p>⇒こうした土地利用の現状を見据えつつ、浅草の玄関口に相応しい交通施設機能の更新も含めた都市機能再生を推進して、隅田川の親水ゾーンと賑わいの中核ゾーンを結びつける一体的なまちづくりを誘導する。</p>
潤いと安らぎの親水ゾーン	<ul style="list-style-type: none"> ・隅田川沿川には、隅田公園や水上バス乗り場などがあり、浅草地域の潤いと楽しみの要素を備えているものの、沿川の建物も川に面して顔を向けておらず、親水テラスも未整備部分が残るなど、水辺空間の魅力をも十分に活かしきっていない状況にある。 <p>⇒まちの賑わいと一体となった人と自然が織りなす都市空間を、自然を大切にしながら創り出す一方、隅田公園と連携した親水空間整備の充実と活用を推進する。また、河川の公共交通としての舟運ルートの開拓や水上バス乗り場の更新など、潤いと楽しみのある環境整備に努めて観光誘客の一翼を担う多様性のある魅力を創出する。</p>
粋なまちなみゾーン	<ul style="list-style-type: none"> ・落ち着いた雰囲気のある料亭、個性ある老舗・名店が点在し、下町情緒たまたよう街並みを醸し出すエリアである。さらに、江戸歌舞伎隆盛の地、猿若三座の歴史性ととも、花柳界の伝統文化やお富士さんの植木市などの年中行事も観られるエリアである。 <p>⇒下町情緒を活かしたまち全体の活動の中で、江戸・下町文化の「粋」を体感できるまちづくりを推進するとともに、賑わいの中核ゾーンとの一体的な集客連携を目指す。</p>
暮らしと賑わいの共生ゾーン	<ul style="list-style-type: none"> ・江戸通り、浅草通り、国際通り、雷門通りに囲まれ鉄道駅にも近接するなど、交通の利便性に優れた土地柄から居住機能とともに業務機能が集積するエリアとなっている。 <p>⇒暮らしやすさや働きやすさに優れた土地柄を維持しつつ、暮らしと業務が共生できる環境に配慮したまちづくりを推進して、定住人口の増加や経済活力を支える街並み整備を図る。</p>

浅草地域まちづくりの3つのプロジェクト

- 浅草地域まちづくりの基本理念、基本方針に基づく事業は、目指すまちづくり像の具現化であるため、その成果が見えるよう、達成すべき時期あるいは機関において集中的に実施する3つのプロジェクトとして整理する。
- 各プロジェクトの考え方は次のとおりとする。

基本理念

「浅草の歴史・文化を育み、新たな賑わいを創造するまちづくり」

基本方針

- 来やすく歩きたくなるまちづくり
- 街並みがつながるまちづくり
- 賑わいが広がるまちづくり
- 時代や文化を体感できるまちづくり

地域の特性を踏まえたまちづくりの方向性

粋なまちなみゾーン

潤いと安らぎの親水ゾーン

賑わいの中核ゾーン

暮らしと賑わいの共生ゾーン

都市機能再生ゾーン

3つのプロジェクト

アクセス環境充実プロジェクト

賑わい創出プロジェクト

水辺活性化プロジェクト

アクセス環境充実プロジェクト

多くの来街者に、いつでも、どこからでも浅草を訪れてもらえるようアクセス性を高めるまちづくりでは、早くて、便利に利用できる公共交通網の充実と安心して多様な交通手段を選べる取組み、そして、その情報を広く他の地域で提供することが重要である。

また、個人や団体あるいは高齢者や障害者、外国人などのあらゆる来街者に対応できる都市基盤や案内システムを地域内、地域外ともに整備していくことが必要である。

訪れていただいた来街者の滞在時間や楽しみの幅を広げるために、新タワー建設地との回遊性や隅田川を挟んだ浅草・墨田を一つの下町文化エリアと捉えた回遊性確保、上野地域、秋葉原地域との連携など、アクセス環境の充実を図る。



賑わい創出プロジェクト

浅草地域のさらなる賑わいを創出するために、伝統的な文化を育み、さらに、新たな文化を創造して、まちの魅力を高めていく。

文化的活動の条件整備など、文化を育むとともに、芸術芸能への支援など、新たな文化の創造を図っていく。街並み整備及び歩行者空間の整備においては、江戸、明治、大正、昭和の歴史と文化を体感できるよう、建物形態、ファサード、街路灯や歩道等の形状・色彩など統一景観を定めたまちづくりを推進する。

おもてなしのまちづくりを演出する多様な観光体験型商いの開発や、沿道での歩行者の休息空間づくりなど、見て、触れて、ゆっくり楽しむ新たな観光資源づくりを展開する。



水辺活性化プロジェクト

浅草地域をさらに魅力ある観光拠点として育てるには、隅田川の水辺の賑わいを創出するとともに、舟運を周辺と連絡する公共交通として機能させるなど、川からの集客を意識した展開を推進することが重要である。

こうしたことから墨田区の隅田川水辺空間構想等との整合を図りつつ、親水空間整備を推進するとともに水上バス乗り場の利便性の向上や陸上交通との結節機能の充実について検討する。

さらに、憩いと賑わいを誘導する水辺空間づくりでは、隅田川流域一帯の陸上からの水辺動線の整備を図り、川に面した街並みや賑わい機能の誘導など、自然を大切にしつつ、川に親しみ、集える環境づくりを展開する。

